aglis

自然劣化する接木テープ

Newメデール

接木テープ

ニューメデール　NEW MEDEL

容易な作業で大きな省力化。活着成績も良好。

- 簡単な準備と容易な作業で、高い活着率が期待できます。
- 接木した後の芽開作業が一切必要ありません。
- 芽数も多く芽ぞろいが良く、芽吹きも早く成長も実に良好です。
- 自然劣化しますので、取り除く手間も省け、台木へのくい込みもありません。

接木用テープ「メデール」、固定用テープ「シーバルB」、切口面保護アルミフィルム「カルースA」は、一緒に使用すると一層効果が期待できます。

幅 × 長さ	ミシン目	ケース入数
25mm×30m	なし	30巻入
25mm×30m	あり 70mm	30巻入
30mm×30m	なし	30巻入
30mm×30m	あり 70mm	30巻入

海外では「BUDDY-TAPE」（バディテープ）という名前で、世界約50か国で愛用されています。

BUDDY TAPE

株式会社アグリス

アグリ統括管理部
〒834-0055 福岡県八女市鵜池 477-1
TEL：0943-30-1177　FAX：0943-30-1178

https://www.aglis.co.jp

A0035-0001

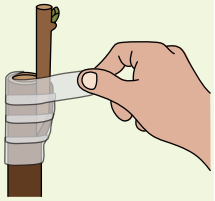
ご使用方法

一般的な切接法

1

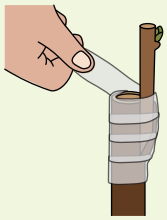
台木に穂木を差し込む。
※形成層がしっかり合うようにする。

2



テープを伸ばしながらしっかり巻きつけて穂木を固定する。
※テープの約半分を使い、最低4重くらい巻きつける。

3



フィルムの残りを伸ばしながら台木切口面を完全にシールして巻き上げていく。

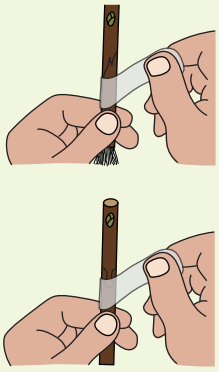
4

穂木の先端切口面まで伸ばしながら巻き上げて、完全にシールする。フィルムは伸ばした形でとめる。

※芽の部分はテープがなるべく重ならないようにする。

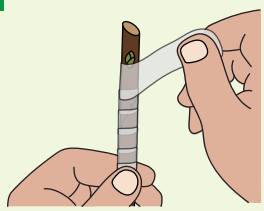
ぶどうや落葉果樹の切接法

1



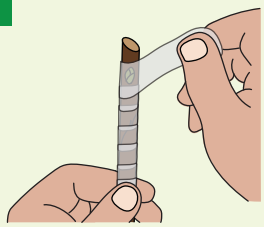
台木と穂木の接合部の最下端よりテープを伸ばしながら一周りさせオーバーラップさせる。

2



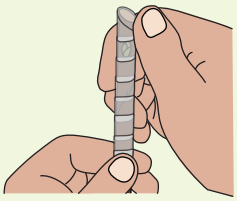
台木と穂木の接合部分は特に動かないよう、テープをしっかり伸ばしながら5～6重に巻く。台木を回転させながら、伸ばしたテープの間隔をあけすぎないように巻く事。

3



台木と穂木の接合部が動かないようにしっかり巻いたら、残りのテープで芽の部分へ伸ばしながら軽く巻き上げる。3重以上になると発芽が遅れるため、芽の部分は1～2重がよい。

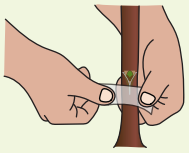
4



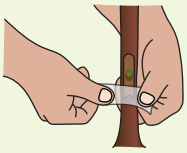
穂木の上部切口面まで伸ばしながら巻き上げて、伸ばして押さえる。全体を隙間が無いように完全にシールすること。

芽接法

1



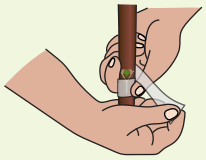
T-Budding



Chip-Budding

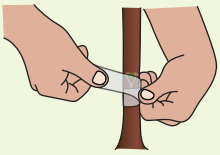
親指と人差し指でテープを持つ。片方はテープの端を持ち、もう一方は残りのテープを持って、図のように伸ばし始める。穂木の下端にテープの上端がかかる位置くらいが良い。

2



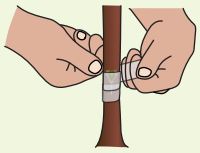
長く持ったテープの方を伸ばしながら一周させ、テープどうしオーバーラップさせる。テープが粘着して動かなくなる。

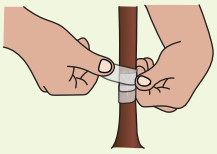
3



穂木全体へ、左右の手を交互に使ってテープを伸ばしながら巻き上げる。この時、間隔を開けすぎないようにする事。

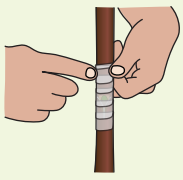
4



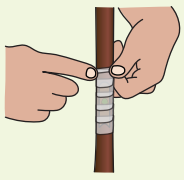


芽の部分は2～3重になっても、フィルムを伸ばして巻いてあれば発芽してくる。出来れば1～2重が好ましく、3重以上になると発芽が遅くなる。

5



T-Budding



Chip-Budding

穂木の上端まで巻いたら、テープを伸ばして押さえればよい。テープは伸ばす事によって自己粘着するので外れることはない。

取扱い上の注意

・使用後は必ずケースに入れ、直射日光や光および高温多湿の場所を避け保管ください。
・気温が低い時（15℃以下）では、伸縮性が低くなります。また、雨水にぬれると粘着性が低下しますのでご使用時の天候に気を付けてください。